



# No Book No Life

No.6 / 2021年10月

## 全国高等学校ビブリオバトル2021群馬県大会校内選考会

### チャンプ本決定！！

10月7日(木)に開催された校内ビブリオバトル大会のチャンプ本が

2年6組吉野貴翔君の『**ミッキーマウスの憂鬱**』(松岡圭祐著)に決定しました！！吉野君の紹介した本は昨年に引き続きチャンプ本に選ばれました。吉野君の出場する群馬県大会は11月6日(土)12:30から群馬県立図書館の3階ホールで行われます。



県立図書館のHPに詳しい情報が掲載されています。右のQRコードからアクセスできます。

### 〈吉野君へのインタビュー〉

Q、「チャンプ本に選ばれた感想は？」

A、「まずは本の魅力を伝えることが出来て嬉しい。できるだけパフォーマンスにならずに本の面白いポイントを伝えるように心掛けたが、本の中身がきっちり伝わっていれば幸いです。」

Q、「本の内容を簡単に教えてください。」

A、「主人公はディズニーランドに憧れて採用に応募した派遣社員。夢を与える側にまわり、笑顔を沢山見られると思っていたのに、配属されたのは地味な『美装部』という部署。そのギャップに悩みながらも、奮闘していく姿、はたまた事件に巻き込まれる姿は清々しい。作者松岡圭祐が作り上げた壮大な『夢と魔法の王国』をぜひお楽しみいただきたい。」

Q、「群馬県大会に向けての意気込みを教えてください。」

A、「昨年も県大会に出場する機会をいただいたものの、予選敗退となってしまいました。2年目ということもあり、今年こそは、予選突破をし、チャンプ本まで駆け上がって如果能、と思う。」

## ～夏目漱石～日本の文豪

高高では2年時に現代文の授業で夏目漱石の『こゝろ』を学びます。

そこで、今回は夏目漱石と『こゝろ』を含む漱石の「後期三部作」について特集したいと思います。

### 〈夏目漱石について〉

夏目漱石は明治末期から大正初期にかけて活躍した日本の小説家です。「則天去私」（小さな私にとらわれず、身を天地自然にゆだねて生きること）を理想とし、『吾輩は猫である』や『三四郎』などの数々の著名な作品を残しました。また、正岡子規や芥川龍之介らとの交流もあり、日本の近代文学に大きな影響を与えました。

### 〈後期三部作〉

作品名	内容
彼岸過迄	「風呂の後」、「停留所」、「報告」、「雨の降る日」、「須永の話」、「松本の話」という6つの短編からなる小説。短編ごとに視点や文体が変わる。若者の日常生活や恋愛話を中心。
行人	「友達」、「兄」、「帰ってから」、「塵労」の全四編からなる。男女の三角関係をメインに置き、妻が信じられなくなってしまった夫の悲哀を描いている。多くの有名な旅行先が出てくるのも魅力。
こゝろ	「先生と私」、「両親と私」、「先生と遺書」の三編に分かれている。授業で扱う「先生と遺書」は先生が長年抱いていた罪悪感を遺書という形で独白するという話。

この三作品は晩年の漱石が胃潰瘍によって生死をさまよったことをきっかけに、人間の利己主義を書くようになった後の作品という点で共通しており、まとめて「後期三部作」と呼ばれています。図書館にも置いてあるので、興味を持った人はぜひ読んでみて下さい。

## 図書館からのお知らせ

- 10月27日～11月9日は読書週間です。今年もポイントカード企画(一冊借りると1P手に入り、5P貯めると景品がGETできる)や、レコード鑑賞会(11/4 昼休み)を準備中です。読書の秋を楽しみましょう。

